

第6学年 図画工作科授業実践事例

1. 活動の指針（活動を通して育てたい力）

b-ふくらむ思い

感じたことや想像したことなどを形や色で思いのままに表す活動を楽しみ、より心地よいもの、美しいものへと思いをふくらませながら表すことを大切にしていく。

2. 題材名 「一枚の板から」～8時間扱い～（工作に表す）



3. 活動の指針と題材のかかわり

本題材では、1枚の板から仕上がり形の思い浮かべて、使用目的に合わせて形や図柄をデザインし、完成までの見通しを立てて組み立てることをねらっている。普段の生活では、板を切ったり、金づちで釘を打ったりして物をつくることは、ほとんど経験のないことである。しかし、これまでの木を素材とした学習経験をもとに、箱としての使いやすさとデザイン性の関連を考えながら、自分が使う物を自分の手でつくる喜びを存分に味わってもらいたい。

作品をつくる際、いくつかの条件①用と美を兼ね備えている。②板のほとんどを使用する。（切り捨てる部分を少なくする）を出している。①については、実生活で使える物をつくることである。本立てや箱をつくる姿が予想されるが、ただ単に部品を加工して組み立てるのではなく、美を追究した自分だけのデザインを重視させたい。そうすることで作品に愛着がわき、楽しみながら制作できるのではと考えた。②については、以前「針金アート」に取り組んだ際、小さすぎる作品をつくったり、針金を大量に余らせる児童がいたために条件とした。本題材は板材を使用するので、ある程度大きさのある、存在感のある作品に仕上げさせたい。

〔共通事項〕

- ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。
- イ 形や色などの造形的な特徴をもとに、自分のイメージをもつこと。

4. テーマにせまるための具体的な手だて

(1) 視点1「思いをふくらませる」

- 本題材では設計図通りに切らないと、自分が思い描く作品には仕上がらない。さらに、ただ切るだけでなく「箱」として仕上げるので、部品を組み立てる活動もプラスされる。そこで、使用する板と同じ大きさの紙（木取り図）を用意し、その紙にしっかりと切断の計画をかき込ませてから切る活動に入っていきたい。その際、板は紙と違って厚さがあることを注意させる。
- 「自分だけの箱」をデザインするときのきっかけになるように、導入時に実際に使用する板と作品へのイメージを広げていけるような参考作品を提示し、1枚の板が生まれ変わる様を感じてもらう。「はやくつくりたい。」「〇〇をイメージしてデザインしたい。」という期待感の高まりをもってもらいたい。

(2) 視点2「思いをかたちにする」

- デザインを考える際、テーマが自由であるがために考えが思いつかず、手が止まってしてしまう児童が出てきてしまうことが予想される。そこで、イメージを構築できるように①アイデアスケッチ②図面制作というように、段階を踏むことで思いをふくらませるような手だてをとりたい。また、どうしてもアイデアスケッチをかけない児童に関しては、イメージマップをかかせる活動を取り入れ、アイデアスケッチへとつなげたい。
- 部品を切ることになるので、本題材ではのこぎりに加えて電動糸のこぎりを使用する。のこぎりの使い方、直角に切る方法、板の中をくり抜いて切る方法など、基本的な切り方を振り返らせながら活動させるようにする。
- 板の厚さは10mmである。本題材では、設計する際に板の厚さが一番苦戦する要素として考えられる。板の厚さを考えて、部品1枚1枚の板の寸法を頭に入れながら活動していかなければならないのである。そこで、教師側から基本となる箱の形を3パターン提示する。この基本となる3つの箱（基本箱）とは、それぞれ寸法が異なる箱である。3つの基本箱の中から箱の中に入れる物によって選択できるようにする。選択したら、デザインや機能性を一人ひとり考えて欲しい。また、児童によっては思い描く箱に対して、基本箱の寸法では思いが実現できないことも考えられる。そういった児童については、基本箱から選択するのではなく、箱の形、寸法から自分なりの思いで制作してもよいことにする。
- 組み立てる場面で「あれ、長さが足りない。」という声が出ることを防ぐように、切る活動に入る前に、木取り計画をしっかりさせ、計画的に、順序よく活動できるように声をかけていきたい。板の厚さがある良い点としては、接着面が広くなり、ボンドに加えて釘の使用もできる。これにより完成時の強度が増し、実用的な作品に仕上がるようになる。

5. 題材のねらい

使う目的を考え、自分なりの発想でデザインし、用具を使い分け、見通しを立てて計画的に箱をつくることができる。

6. 題材の評価規準 ◎重観点

	造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
評価規準	○自分なりの発想でデザインし、板を切り抜いたり、組み立てたり、色を塗ったりしている。	◎自分なりの構想で、立体のつくり方やデザインを工夫することができる。	○電動糸のこぎりで図面通りに板を切り抜くことができる。	○自分の作品と友だちの作品のよさや違いに気づき、認め合うことができる。

7. 準備

《児童》定規 彫刻刀

《教師》電動糸のこぎり 板材 釘 紙やすり ちょうつがい 金づち きりのこぎり 木工用ボンドなど

8. 指導と評価計画（8時間扱い）

時間	○活動内容 ☆★予想される子どもの姿	◆教師の働きかけ 【評価規準】・・・評価方法
1 次 135 分	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">一枚の板からつくる箱のデザインを考えよう。</p> <p>○板材や参考作品を見て、一枚の板からつくられる自分だけのデザインを考える。 ☆自分なりのデザインを考える。 ★デザインが定まらない。</p> <p>○アイデアスケッチをかく。 ☆つくる箱をイメージさせ、アイデアスケッチをかく。 ★アイデアスケッチに表せない。 ・「難しくてうまくかけないよ。」</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">組み立てることを考えながら図面をかこう。</p> <p>○アイデアスケッチを見ながら寸法を考え、図面をかく。 ・「部品と部品の間に無駄な部分が無いようにかき込もう。」</p> <p>★板に無駄が出てしまうような図面をかいている。</p> <p>○図面通りに木取りをする。 ★木取りがうまくいかない。 ○木取りをした部分がどこに使われるのか、アイデアスケッチにかき込む。</p>	<p>◆板材と参考作品を見せ、一枚の板から素敵な箱をつくることを伝える。</p> <p>◆参考作品を見せ、教師がつくった思いを伝える。さらに、「箱と言ったら何を思い浮かべるか?」「箱の中に何を入れたいか」を考えさせ、イメージマップをかかせる。</p> <p>◆立体を平面で表すことは困難なので、様々な角度から（平面でかけるように）アイデアスケッチをかかせる。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">【関】 【発】・・・つぶやき アイデアスケッチ</p> <p>◆板材と同じサイズの紙（木取り図）を用意し、板の厚さを考慮して図面をかくよう伝える。（板と板の結合面には点線をかき込ませる）</p> <p>◆板を無駄にしないよう、工夫して図面をかかせる。</p> <p>◆図面を当てがって木取りをしてもよいことを伝える。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">【発】・・・図面 【技】・・・活動の様子</p>
2 次 180 分	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">デザインに合った部品を加工して組み立てよう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	<p>◆電動糸のこを使う場所、釘を打つ場所等活動内容によって場所を分ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電動糸のこぎりの場 ・のこぎりの場 ・ボンド・釘打ちの場 ・ヤスリの場 ・着色・彫刻刀の場 <p>◆活動場所ごとにヒントコーナーを設け、活動の手だてとする。</p>

○のこぎりの使い方を振り返る。

- ・「使ったことがあるよ。」
- ・「両方に刃がついているよ。よく見ると刃の形がちがうよ。」
- ★真っ直ぐ切れない。
 - ・「線の上を切れないよ。」

○電動糸のこの使い方を振り返る。

- ・「5年生のときに使ったよ。」
- ・「刃が危ないけど、安全に使えばとても便利な物だったね。」

○電動糸のこを使って板材を切る。

- ・「順番に使おう。」
- ・「焦らず、ゆっくり切ろう。」
- ★刃が外れたり、刃を折ってしまう。
- ★図面通りに切れない。
 - ・「まっすぐ切れないよ。」
 - ・「曲線がうまく切れない。」

○切り取った部品にヤスリをかける。

- ・「ヤスリをかけたら滑らかになったよ。」

○切り取った部品を着色したり彫刻したりする。

★思い通りの色で塗れない。

★うまく彫れない。

○ボンドや釘を使って接着する。

★うまく接着できない。

- ・「釘を真っ直ぐにうてない。」

○アイデアスケッチを見ながら箱を組み立てる。

- ・「どこから組み立てようか。」

★アイデアスケッチ通りに組み立てられない。

- ・「思い通りに組み立てられないよ。」

○ニス塗る。

◆切る→ヤスリをかける→着色・彫刻の手順を確認する。

◆のこぎりの使い方を振り返り、安全上の留意点を伝える。

縦引き刃と横引き刃の使い分け方を伝える。

◆切るときの姿勢や視線を注意させる。

◆電動糸のこの使い方を振り返り、安全上の留意点を伝える。

・刃の付け方

・板材を両手でしっかり押さえ、左右均等に力を入れて板材を押す。

・板材を押す速度に注意する等。

◆電動糸のこの数に限りがあるので、生活班ごとに1台配当する。

◆電動糸のこぎりの使用は、ローテーション制(2つ部品を切り取ったら次の人と交代し、切り取った部品にヤスリをかけ着色や彫刻させる)を取り入れる。

◆電動糸のこの使い方を確認させ、練習用の板を使って練習させる。

◆細かい部分をヤスリにかけるときは、紙ヤスリを定規や鉛筆に巻いてヤスリをかけるようにする。

◆絵の具をたっぶり使うよう助言する。また、板の木目を生かし、薄く塗る方法があることを伝える。

◆板の繊維に注目させ、繊維方向に彫るよう伝える。

◆釘を打つポイントに、きりで少し穴を空けさせて、釘を押さえて真っ直ぐに金づちを振り下ろすよう伝える。

◆組み立ての手順によっては釘が打てなくなったり、組み立てられなくなるので、組み立てる順序を考えながら組み立てるよう声をかける。

【関】・・・活動の様子、つぶやき

【発】・・・作品

【技】・・・活動の様子・作品

・「ツヤが出てきれいになったよ。」

3
次

鑑賞会を開こう。

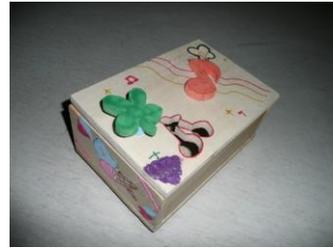
4 5
分

○発表会をする。
☆完成した作品を見合う。友だちの作品のよさや工夫したところなどに気づいて見ている。
・「〇〇さんの作品は、ちょうつがいの使い方が工夫されてるね。」



☆友だちの作品のよさや工夫したところなどを見つけて鑑賞カードに書く。
☆感想交流をする。

◆作品を机の上に並べ、鑑賞しやすい場をつくる。
◆色々な観点からよいところや工夫したところを見つけられるよう助言する。



【鑑】・・・発表 鑑賞カード